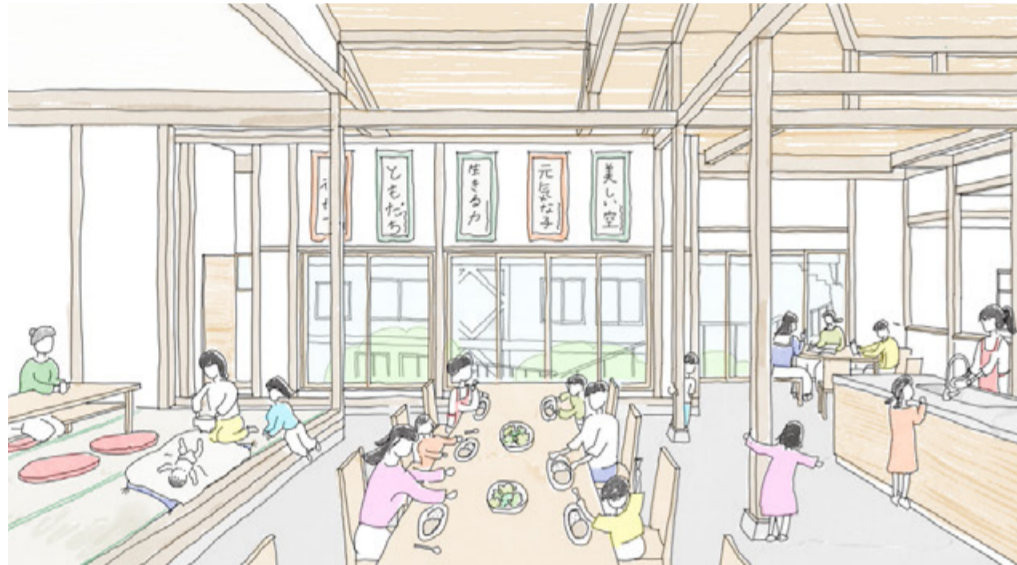




みんなの家の庭を、「見るための庭」から、多世代が集う庭へと改修する。外観では既存の石垣を継承しつつ、外から庭での活動の様子が見えるように視認性を確保する。庭では、かつて景石だった庭石をベンチに設え直し、木陰の下に集い、ライブラリーの本を読む場所をつくる。新しくみんなで植える植物は新設する井戸水で丁寧に育てられ、みんなで収穫し、楽しむ機会をつくってくれる。



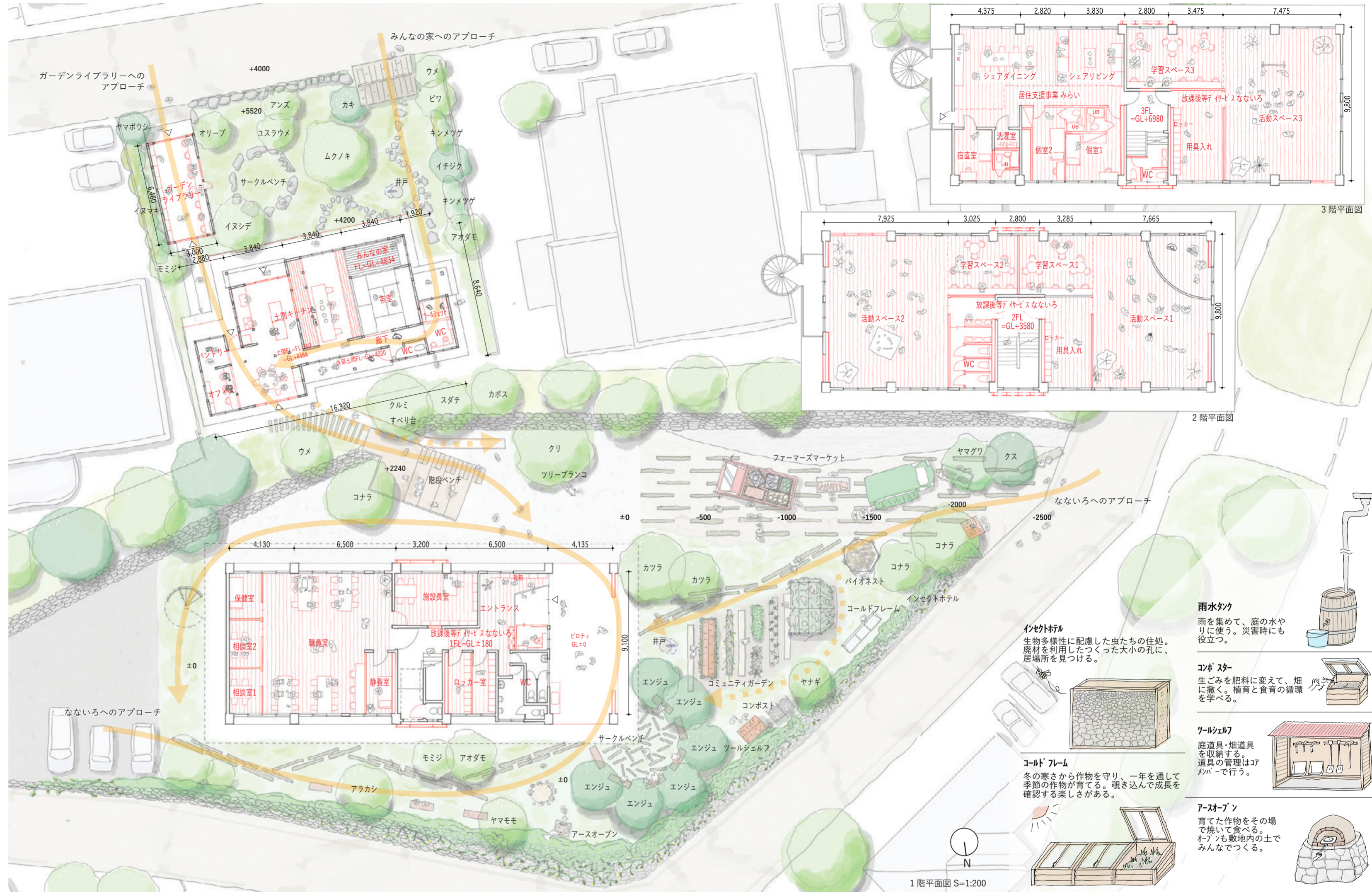
土間キッチン みんなの家の大きなキッチンで、子どもたちと育てた野菜を子どもたちとともにわいわい調理し食べる「ファーム to テーブル」を実践。天井を外して小屋組を露出させ、農家の土間のような、庭とつながったおらかな空間。残された畳の間は茶室。空き家に大学生や地域住民が集い、まちづくりの話合いの場になることが期待される。



子どもたちの遊び場 となっているこの場所では、既存の平地をできるだけキープしながら、斜面に様々な遊びやイベントができるスタンド階段とすべり台を設置することで、民家棟と既存施設棟の間における人の行き来を活発にする。斜面には果樹を植栽し、果物の栽培・収穫・加工を通じて、植物を育てる楽しみをみんなで見分かち合う。



放課後等デイサービス ないろの前には、みんなで野菜を育てるコミュニティ畑と、野菜のマーケット等を開催できる広場をつくる。ここでは畑だけでなく、コンポストや道具小屋、アースオープンなど農的なしつらえを少しずつ加えていくことで、手間をかけ、循環の中で野菜を育てることの楽しさを広げていく。



- 雨水タンク**
雨を集めて、庭の水やりに使う。災害時にも役立つ。
- コンポスター**
生ごみを肥料に変えて、畑に撒く。植育と食育の循環を学べる。
- ツールシェルフ**
庭道具・畑道具を収納する。道具の管理は「アースオープン」で行う。
- アースオープン**
育てた作物をその場で焼いて食べる。アースも敷地内の土でみんなで作る。
- インセクトホテル**
生物多様性に配慮した虫たちの住処。廃材を利用したつくった大小の孔に、居場所を見つける。
- コールドフレーム**
冬の寒さから作物を守り、一年を通して季節の作物が育てる。覗き込んで成長を確認する楽しさがある。



ガーデンライブラリー 本好きがおすすめの本を持ち寄ってつくる共同図書館。子どもたちや家族も、地域住民も、近所に下宿する大学生も来られる団集の場。ガレージを耐震補修し、まちとみんなの家を繋ぐ動線を兼ねる。